



門 〇 13
號 3519
卷 1

怪談 河伽梯叙



河伽乃代め有る人混沌王といふ。眼耳鼻口を多岐に
 四方の王是を明くす。莊子の寓言あり。人々穿鑿其
 弊をみよむを好まら。吾朝鞍馬山乃化生初を大小
 變下たると。曾呂利が辨舌と改め。豊臣大閣は勇と
 怪く。衆と輕く。とと。練りたるを。怪を。怪を。古聖乃
 いま。先といふ。も。小子。全言の。善と。殿。時。戲言の。甘口
 ころ。ま。り。と。ば。も。て。推。を。受。ん。と。の。端。と。も。ま。へ。用。と。無。用。の
 免別あるべし。都塵舎主人の撰め。巻ハ。珍。く。多。る。物。語。小
 引の花と咲せ。と。書。肆。と。く。本。ふ。ら。う。と。あ。度。人。の。更。え。あ。う
 きたる人の河米乃。目。さ。り。ゆ。い。ん。と。河伽梯の。號。ま

昭和二十九年
七月十九日
購求

因^うて色^{いろ}香^かを西^{にし}方^{かた}小^こ弘^{ひろ}人^{ひと}とと表^{あらわ}すの奇^き異^い乃^の雜^ざ證^{じやう}と成^なせ
 やとと裏^{うら}す六^む迷^{まい}情^{じやう}ありらまらる人^{ひと}の邪^{じや}心^{しん}と辨^わん^ん怪^{かい}を
 又^{また}て怪^{かい}とて其^{その}怪^{かい}自^じ懷^{わい}斗^{たう}理^りと教^{しやう}る者^{もの}於^お京^{きやう}のや此^こ
 鬼^き女^{によ}濱^{はま}床^との半^な五^ご條^{じやう}の妖^{あや}物^{ぶつ}小^こ川^{がは}の金^{きん}花^か猫^{ねこ}など兼^{けん}法^{ぽう}所^{しよ}
 の筆^{ふで}乃^の跡^{あと}と考^{かう}よむひを^をねまは^をん^んと迷^{まい}字^じをなれ
 の主^{しゆ}ま^まを^をあ^あれ^れ沖^{おほ}伽^がを^を事^じを^をん^ん。禪^{ぜん}を^を考^{かう}へ^へる^る
 予^よを^を徐^{じゆ}くと是^{これ}を^を考^{かう}へ^へる^る也^や。欲^{よく}と^と而^に色^{しき}落^{らく}下^げ後^ご學^{がく}

昌溪書

ひしく祖^そ父^ふとを^をん^んと^とあ^あつ^つと^とつ^つと^と移^たして
 弟^{あとう}の吐^つと^とあ^あり^りたり^{たり}奴^には^は花^{はな}嫁^{よめ}と^とら^らう^う
 夕^{ゆふ}夜^やよ^よの神^{かみ}と^とま^まま^まの^の女^{によ}め^め新^{しん}を^を移^たして^{して}知^ちり^り
 疑^{たが}ひ^ひと^とら^らも^も自^じ性^{じやう}變^{へん}化^けと^とら^らる^る。性^{じやう}の化^け
 たら^らる^る花^{はな}と^とら^らる^ると^とび^びを^をあ^あら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る
 尖^いの^の玉^{たま}と^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る
 中^{ちゆう}の^のた^たり^りぬ^ぬ者^{もの}や^やの^のま^まて^て物^{ぶつ}語^ごと^とら^らる^る南^{なん}風^{ふう}
 よ^よと^とら^らる^る人^{ひと}の^の古^こ代^{だい}め^めは^はび^びり^りと^とら^らる^る時^{とき}め^めあ^あひ
 て^てハ^ハ沖^{おほ}伽^がの^のと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る
 よ^よと^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る
 色^{しき}と^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^ると^とら^らる^る

河合格 卷之二

撰修系乃周なるの白居易の第壹卷の整理
ありふるとんド怪談の又巻とらんと物とこれ

花洛

都塵舎

怪談河伽梯

一之卷

目録

花洛詠林 雲峰述

第一 深草乃名醫

志丹の正伯の療治の圖小安あて其を村の

悔妾女の契會結はるゝ系整はるゝ尻尻の居ぬ

足更娘恨葛の系高が小高が小高がたまらる

中世多 三十一

第二坪の石ふ

玉孺子下袴をわけて八幡様組冊を寄ふ
好女公の胸の圍路をぬけて付下下の白く
ききしとさういふかき三幡のむく語り

第三 車屋町の雪女

雪彦乃房りをわけて登つて雪彦の
高木履をか結よりのこれと
腰宿をぬぐむやうにせしめし

深草乃名醫

打老問丸と云ふ老の仙業也是春六甲を著きして唐土の或
老仙傳をてりて忽思と成てそよ六十餘りたる春といふのいく
死を命ととりあふかあきあき徳をいん交のい事とてまを
て海と不役めい事教をふ親の心を度しを者と村とてんみおたる
この古事や旧老を若し書かろ。海にまをるも。まをるもまをるも
信を記す。この春も。白髪のを命を小頭のを命のれどつはあてま
のたらし終て目も濃た。耳も輝きた。落齒の冬とのう。次光陰の春も
引尖はるを極む。雲も付の智も。春はれと。後小町がよみ。あつた
深草の志守の心宿と。小舟の醫者まにける。首宿と。まをるも
じ。首の自れ。胸のけ。まをるも。まをるも。まをるも。まをるも。

和州名所 卷之三



等のうて夜も平治まふらむと書報の後をまゐる家もさる事ありけるふ
娘を家来といふ事借の目もさる事今この世よりさる事いふ事
とて定むるは遠くすたけ侍物候とてさるけ侍物をさる事いふ事
今酒の浦の海まゝ船の沖あたふを望むもさる事いふ事
いづれかたにさる事いふ事いふ事いふ事
と三遍うたふはさる事いふ事いふ事いふ事

と下のあはれをいふ事いふ事いふ事いふ事
氣色もさる事いふ事いふ事いふ事
出ると男お娘を新とさる事いふ事いふ事
粧もさる事いふ事いふ事いふ事
也といふ事いふ事いふ事いふ事

おれをいふ事いふ事いふ事いふ事
とといわむ事いふ事いふ事いふ事
残のあはれをいふ事いふ事いふ事
別をいふ事いふ事いふ事いふ事
田かへ

おれをいふ事いふ事いふ事いふ事
かあをいふ事いふ事いふ事いふ事
おれをいふ事いふ事いふ事いふ事
おれをいふ事いふ事いふ事いふ事
おれをいふ事いふ事いふ事いふ事
おれをいふ事いふ事いふ事いふ事
おれをいふ事いふ事いふ事いふ事
おれをいふ事いふ事いふ事いふ事



櫻の枝を成て若後も加ぬ男のあはれも多き事とてあてはけし
松の向ふも性女己貴のきりあはれも多き事とてあてはけし
のきりあはれも多き事とてあてはけし
見事なりと云ふ共今より世に片ふ事とてあてはけし
その物を思ふ時わが事なり針を針のともよめて思ふはひの
國に法衣の衣は後にも後にもあてはけし
あてはけし今世に國が今も表針のわんと思ふはひの
大に定むる事なれば今世に針の衣はあてはけし
事とて思ふはひの衣はあてはけし
二年の二つ水に死なれぬ死なれぬ死なれぬ死なれぬ
又生てもよむを針を針の衣はあてはけし
の針を針の衣はあてはけし

わが事とて思ふはひの衣はあてはけし
あてはけし今世に國が今も表針のわんと思ふはひの
大に定むる事なれば今世に針の衣はあてはけし
事とて思ふはひの衣はあてはけし
二年の二つ水に死なれぬ死なれぬ死なれぬ死なれぬ
又生てもよむを針を針の衣はあてはけし
の針を針の衣はあてはけし

車右町の雪女

いけのきりあはれも多き事とてあてはけし
和は二百十三の事なり
と云ふ共今より世に片ふ事とてあてはけし
その物を思ふ時わが事なり針を針のともよめて思ふはひの
國に法衣の衣は後にも後にもあてはけし
あてはけし今世に國が今も表針のわんと思ふはひの
大に定むる事なれば今世に針の衣はあてはけし
事とて思ふはひの衣はあてはけし
二年の二つ水に死なれぬ死なれぬ死なれぬ死なれぬ
又生てもよむを針を針の衣はあてはけし
の針を針の衣はあてはけし

